

北朝鮮によるミサイル発射について

1 発射事案の概要

- (1) 発射日時 令和4年11月2日(水) 8時50分頃
- (2) 発射場所 北朝鮮東岸付近
- (3) 発射数等 弾道ミサイルを少なくとも2発

	方向	最高高度	飛翔距離
①	東方向	約150km 程度	約150km 程度
②	南東方向	約100km 程度	約200km 程度

- ・ 詳細は現在分析中だが、落下したのはいずれも朝鮮半島東岸付近であり、日本の排他的経済水域（EEZ）外と推定
- ・ 変則軌道で飛翔した可能性があり、引き続き分析中

2 首相指示（令和4年11月2日 8時55分）

- (1) 情報収集・分析に全力を挙げ、国民に対して、迅速・的確な情報提供を行うこと
- (2) 航空機、船舶等の安全確認を徹底すること
- (3) 不測の事態に備え、万全の態勢をとること

3 内閣官房発表内容（令和4年11月2日10時25分）

- ・ 付近を航行する航空機や船舶への情報提供を行ったところ、現時点において被害報告等の情報は確認されていない。
- ・ これまでの弾道ミサイル等の度重なる発射も含め、一連の北朝鮮の行動は、我が国、地域及び国際社会の平和と安全を脅かすものである。また、このような弾道ミサイル発射は、関連する安保理決議に違反するものであり、我が国としては、北朝鮮に対して厳重に抗議し、強く非難した。

4 防衛大臣指示（令和4年11月2日10時21分）

- (1) 米国等と緊密に連携しつつ、情報収集・分析に全力を挙げる
- (2) 不測の事態の発生に備え、引き続き警戒監視に万全を期すこと
その後、関係幹部会議を開催するなど、対応に万全を期しているところ

5 県の対応

情報収集及び市町村（国民保護担当課及び消防本部（消防組合））への情報伝達

6 政府の対応

官邸危機管理センターに設置している「北朝鮮情勢に関する官邸対策室」において、関係省庁からの情報を集約するとともに、緊急参集チームを招集し、対応について協議を行った。

7 最近の発射状況

北朝鮮のミサイル発射は今年に入って29回目（うち弾道ミサイルは24回目）